



# 波紋

発行所 教育活動総合サポートセンター

〒213-0033 川崎市高津区下作延5-11-8

E-mail support0731@luck.ocn.ne.jp

URL <http://www.kks-support.sakura.ne.jp/>



## もう一度、みんなで不登校を考えよう

1月27日(金)午後1時から、文部科学省の皆さんがサポートセンターに視察に見えました。約20年前に文部科学省から委託研究を受けていた頃の研究報告書、令和元年度・2年度の研究報告書、今年度の研究報告書などをもとにサポートセンターが取り組んできた内容を説明しました。

文部科学省の調査では、2021年度に30日以上登校しなかった不登校の小中学生は過去最多の24万4940人で初めて20万人を超えました。不登校の児童生徒の増加が止まらない状況を受けて、文部科学省は不登校の予防策を強化していくようです。今後、子どもへのアンケートをもとに、授業や学校生活の改善する仕組みも検討していくそうです。

ただ、「子どもの声を聴く」ことは容易いことではありません。2020年度の文部科学省の子どものアンケートの回答率は、小学生で11.7%、中学生で8.2%です。この結果を見て、量的にも、質的にも「子どもの声を聴く」ことは大変難しいことなのだと分かります。だからこそ、文部科学省の方々はサポートセンターのような不登校の子どもたちが通う施設の声を聞きたかったのだと思います。サポートセンターの視察後に「夢パーク」へ向かったことでも、できるだけ情報を集めたいという熱意を感じました。

今年度のサポートセンターの研究テーマが「子どもの声から不登校を考える」になっています。ぜひ、この私たちが取り組んでいる研究の成果を国の施策に生かしていただけたらと思っています。



### 研究部会～シンポジウムに向けて①～

2月1日(水)宮ノ下で、研究部会が開催されました。当日、研究部長やシンポジストが提案する「研究報告」の内容を検討しました。この日は、当日使用するパワーポイントの資料を一枚一枚丁寧に検討していきました。この日に修正を加えたものを、3日の研究協議会でさらに検討し、6日のリハーサルに備えていきます。



### 研究協議会～シンポジウムに向けて②～

2月3日(金)午後2時から岡田守弘先生を囲んで、研究報告会前の最後の打ち合わせをしました。岡田先生から、「不登校の対にある言葉は何か」、「『子どもの声を聴く』と『子どもの声に耳を傾ける』違いは何か」など根源的な問いかけがあり、改めて「不登校とは、何か」を考えさせられる一日になりました。



### リハーサル～シンポジウムに向けて③～

2月6日(月)午後2時から、2月11日のシンポジウムに向けて、リハーサルが行われました。最初に、研究報告やシンポジウムの資料の袋詰め、次に、報告内容やシンポジウムでの発表内容の確認が行われました。最後に、シンポジスト、講演者などの席の確認を行いました。いよいよ今年度の報告会の準備が整いました。本番が楽しみです。



## 不登校シンポジウム



2月11日(土)午後1時30分から「もう一度、不登校を考えよう」をテーマに不登校シンポジウムが開催されました。

まず、最初に研究報告会として、総合教育センター教育相談センターと教育活動総合サポートセンターから報告がありました。

次に、シンポジウムが開催されました。今回のシンポジジストは、びんざネットの金子

さん、中学校の支援教育コーディネーターの榎本さん、スクールソーシャルワーカーの柏崎さん、教育相談センターから小林さん、そしてサポートセンターの保崎さんが務めました。それぞれの立場から不登校にかかわる取り組みや課題の発表がありました。その後の、意見交換では保護者や大学生から貴重な意見が出されました。保護者の方から「不登校はいつ終わるのかという不安な日々を送っている。何とか早く行けないかともがいている。こうしたらどうですかという具体的なアドバイスが欲しい。苦しい時に助けてくれる人がいない。」という悲痛な声も上げられました。もちろん、この意見にも、シンポジジストが丁寧に対応していました。



最後に、岡田守弘先生から、不登校に関わる新たな切り口も提案されました。アンケートの中には「『不登校の反対の言葉は何か』『聞くと聴くの違いは何か』『不登校になれなかった理由』など、考えたこともない角度からのお話があり、文科省でも多様で適切な学習活動や休養の必要性を取り上げる時代になったことを改めて知る機会となった。」という感想が多数寄せられていました。今年度の「不登校シンポジウム」は、来年度の研究つながる場になったと思います。



という感想が多数寄せられていました。今年度の「不登校シンポジウム」は、来年度の研究つながる場になったと思います。

## 第2回会計担当者会

2月6日(月)午前中に、会計担当者が開催されました。小泉めぐみ税理士からは「インボイス制度」の現状についてご説明をいただきました。会計は、NPO法人を支える大切な営みです。サポートセンターには、会計の専門家がいるわけではありません。この時期は、子どもたちの学習支援や教育相談をしながら、税理士さん等のアドバイスをいただき、並行して会計の作業が続きます。こうした努力なしには「子どもや保護者の支援」という大切な事業が続けられません。



## 第1回友だちに薦めたいこの1冊コンクール表彰式



2月19日(土)KSPホールで東京応化科学技術振興財団が主催した「友だちに薦めたいこの1冊コンクール」の表彰式が行われました。サポートセンターではこの事業の第1次選考の審査を務めました。応募総数は3851点もあり、大変な審査でしたが、サポートセンターには、理科、国語、社会、英語、図書等の研究会を背負ってきた方が多いので、このような審査は実は得意分野なのです。今年度、大きな成果をおさめましたので、来年度以降継続していくサポートセンターの事業になると思います。

## 3月の行事予定

1	水	研究部会⑫、日本語支援東小倉、学習支援幸・日吉教室
2	木	学習支援川崎教室
3	金	学習支援幸・日吉教室
4	土	寺子屋ハッピータウン分教室
5	日	
6	月	事務局打合せ⑫
7	火	南野川10時第2回運営会議 学習支援川崎教室、寺子屋さぎぬま
8	水	日本語支援東小倉、学習支援幸・日吉教室、幸区連絡会議14時半
9	木	学習支援川崎教室
10	金	事務局会13時、役員会15時、学習支援幸・日吉教室
11	土	寺子屋ハッピータウン分教室
12	日	
13	月	学習相談部会⑪
14	火	学習支援川崎教室、寺子屋さぎぬま
15	水	日本語支援東小倉、旭町保護者の会
16	木	学校サポーター登録手続①、臨任研連絡協議会③
17	金	学校サポーター登録手続②
18	土	理事会③13:30、臨時総会15:30(生涯学習プラザ)
19	日	
20	月	
21	火	春分の日
22	水	学校サポーター登録手続③
23	木	
24	金	学校サポーター登録手続④
25	土	所員会13:30(高津市民館)
26	日	サイエンスキッズ年度末打合せ14:00(宮ノ下)
27	月	
28	火	
29	水	旭町春期休業、南野川門出を祝う会
30	木	南野川春期休業
31	金	宮ノ下学習休み